

人間科学研究科修士課程修了審査の基準等について

1. 修士修了基準

修士論文のテーマとした研究の意義、目的、手法、結果を正しく理解し、それを論理的にまとめ、質疑に対してわかりやすく応答できる能力を持つこと。

2. 修士論文および面接審査の評価

研究課題や成果の優劣よりも、取り組んだ研究課題や方法について良く理解できているか、目的達成に向けて十分な努力をはらったか、将来の「発展性」が見込まれるかに重点をおいて評価を行う。

A. 論文審査

- 1) 修士課程修了希望者は、修士論文提出期限までに、審査用の修士論文3部を大学院事務室に提出し、大学院事務室担当者は題目および様式等を確認後、論文と審査結果要旨記入書類を審査委員（主査1名・副査2名）の教員3名に送付する。なお、主査は主指導教員があたり、副査のうち1名は他領域の教員とする。
- 2) 審査結果要旨は副査から主査に提出し、その結果に基づき、主査から学生に論文の修正等を指示し、提出期限を通知する。
- 3) 審査委員は、個別項目評価について各5段階（5を最高、3を標準とする）で評価する。

[個別項目評価]

- a) 課題：研究テーマを選んだ動機とその意義付けが明確か
- b) 手法：用いた原理・手法を充分よく理解しているか
- c) 結果：結果の説明が明確で適切か
- d) 議論：結果の解釈が論理的で明確か
- e) 引用：過去の関連する研究の評価や引用が適切か
- f) 到達：得られた成果の科学的到達度は高いか
- g) 発展：研究の将来性、展望の広さ、独創性はあるか

B. 面接審査

- 1) 審査委員3名により、質疑応答を行う。
- 2) 質問に対して的確に答えているか等を評価する。

C. 総合評価

- 1) 論文審査および面接審査の結果から、総合評価を、修士修了（可・否）で行う。

2004.12.15 決定

2016.12. 7 改訂

2017. 1.18 改訂

国際協力研究科修士論文審査の基準等について

1. 修士論文審査の判定

修士論文のテーマに基づく調査研究の意義、目的、手法、結果を正しく理解し、それらを踏まえ、自らの分析内容を明確に論述し、質疑にも的確に応答できる能力を持つこと。

2. 修士論文および口頭試問の審査基準

(1) 修士論文審査

- ・論文のテーマ・内容にふさわしい主題・副題が掲げられているか。
- ・論旨を反映した論文構成がとられているか。
- ・先行研究を踏まえた論理的な議論が展開されているか。
- ・学術論文としての体裁が整っているか（引用、付注、参考文献・資料等）。

(2) 修士論文口頭試問

- ・論文の内容が的確に紹介されたか。
- ・論文の内容に関する審査委員の質問に適切に応答したか。
- ・論文から導かれる今後の課題を示唆できたか。

以 上